

和泉都議が案内・説明

党後援会が「神宮外苑見学会」

「この再開発計画がいかにかにひどいか、よくわかった」



余りのウオーキングでした。和泉都議は、はじめに国立競技場の建て替えで高さ制限を撤廃したことで、道路を挟んで立つ高さ50メートルの「三井ガーデンホテル」の建

設が可能になったことを説明しました。聖徳記念絵画館前の軟式野球場の前では、野球場の名前にも使われている「大銀杏」の前で「この大



銀杏も伐採の対象です」と。銀杏並木を歩きながら、ここから8メートルの場所に新しい神宮球場の高い塀が建設されます。高さ約20メートルの銀杏並木は、その1.5倍くらいの長さで地中に根を張っている。新神宮球場の建設によって、根に深刻な影響を与えると専門家が指摘していますと、説明。

参加者は銀杏並木を青山通りまで歩き、高さ90メートルの伊藤忠本社ビルを仰ぎ見て、これが190メートルになり、神宮球場の西側には三井不動産の複合ビルが185メートルの高さでそびえたつことになる、との説明に驚きの声を上げました。和泉都議は、最初に再開発の計画を森喜朗氏に持ち込んだのも、公園を再開発のタネ地にできる「公園まちづくり制度」を作ったのも、風致地区の規制を緩和するよう新宿区に求めたのも東京都だと、都の姿勢を厳しく指摘しました。

10月18日、葛飾区日本共産党後援会主催で「神宮外苑見学会」が行われました。

千駄ヶ谷駅に13時集合で40人が集まり、和泉なおみ都議の案内で1時間

「街場の薬局はいつも地域をみています」 葛飾区薬剤師会と懇談

和泉なおみ都議は十月十二日葛飾区薬剤師会との懇談を行いました。

当日は薬剤師会から佐々木武志会長をはじめ、三輪博氏、秋山宗一郎氏、紀藤寿雄氏、森耕司氏と役員のみなさんが揃って、それぞれの仕事を終えて集まっていた。午後八時三十分から十時すぎまで熱心に対話が行われました。

薬剤師会からは現在の深刻な薬剤不足問題の説明がありました。薬剤に関わるさまざまな付属材料の価格高騰に加え、政府のきびしい薬価切

り下げ政策がからんでいること、これに加えて長期にわたるコロナ対応生活で子どもたちの免疫力が落ちていけるせい、夏場にインフルエンザが流行するという状況が生まれているという複雑な背景が語られました。

「このままでは十二月から一月にかけてのインフルの山場をのり越えられるのか、心配です」との声に和泉都議は「問題が国政に関わることなので、この懇談で教えていただいた情報を国会議員と共有して対応を考えた」と述べました。



懇談はマイナ保険証問題など多岐にわたりましたが、かかりつけ薬剤師問題に関連して会からは「私たち街場の調剤薬局は、大型チェーン店とはちがいで、いつも地域をみています。お薬手帳を通じてひとりひとりとつながっている。しかし街からは個人商店が消えつつあるのが実態です。このほうが大きな心配です」と、薬剤師会として地域をささえる役割と抱負が語られ和泉都議も共感を深くしました。



日本共産党 都議会議員
和泉なおみのさわやかレポート
NO.86 2023.11
和泉なおみ事務所 葛飾区東立石 3-25-8
TEL 5671-0850 / FAX 5671-0851

